

ぱちんこ 言葉物語

35

金(色)

今回の言葉物語は、前回でお伝えしたレインボー「虹色」とは異なる状況にあるチャンス色「金(色)」について焦点を当ててみたいと思います。

高価・高貴・輝きや成功を強くイメージさせる金色は、パチンコやパチスロで必要とする出玉感や勝利についてのイメージ相関が非常に高く、多くの機種で筐体や画像、盤面においても広く採用されている色です。その一方で金に関するやや俗物的なイメージも併せ持つため、ホール側においても販促物や装飾でも繊細な使用を要求されます。

金色の全面採用というのはこれらの理由から意外と難しいのですが、例えば取って全面金色を採用したマカオ・サンズの建築外観は周辺の建築物との差別化もあり、非常に強いイメージをさせるものに成功した稀有な

例と言えるでしょう。

2000年以降盛んに

さてパチンコ・パチスロ業界では差別化を図る形で金色が採用されはじめました。年代で言うと2000年にデビューした「デュエルドラゴンR」、2001年以降「ネコDE小判」等のアリストクラート社製機種、そして2002年「ミリオンゴッド」あたりとなります。

デュエルドラゴンRでは兄弟機で獲得枚数を抑えた「デュエルドラゴン2」とシリーズ機としてユーザーに分かり易い筐体色違いを採用。そして「ネコDE小判」等は、当時アリストクラート社製機種で多く同社で採用された筐体色で、メーカーとして「アリストクラートの台」としてユーザーへイメージ想起ができました。そして「ミリオンゴッド」は言うに及ばずその出玉イメージを連想させるものとしては十分なものでした。

またパチンコでも2010年に「C



リプレイが出玉のカギを握ったアリストクラート「ネコDE小判」。当時同社製品では金色筐体が多く採用された ©Aristocrat Technologies



ミリオンゴッドのイメージをパチンコで再現するために、パチンコ機では当時非常に珍しい全面ゴールド筐体で2010年に登場した「CRミリオンゴッドプレミアム」 ©UNIVERSAL



CRルパン三世~消されたルパン~での金色保留予告。この時点での単体信頼度は約55%。多彩な予告とストーリーで、現在第一線で輝く人気機種である ©モンキー・パンチ/TMS・NTV

Rミリオンゴッドプレミアム」として珍しい金色の専用枠を採用したことでも話題となりました。

その後液晶画面やフルカラーLEDの採用が始まり、パチンコがよりエンターテインメント性を増していく中で、金色の採用意図は各社で大きく分かれることになりました。採用個所は役物のエフェクトから保留に始まり予告、セリフに至るまで各所に配置されますが、概ねの方向性としては「大チャンス」「激アツ」「大当り濃厚」な演出として採用されています。

その中でサンセイR&Dの「CR牙狼」シリーズでは金色エフェクトは単なるリーチか疑似連発発生予告に過ぎないという伝統を踏襲している点は非常に珍しいと言えます。

「裏切られ感」が強くては、基本は出現「アツい」という金色は、時として外れた時の「裏切られた感」

も大きいものです。ルパンのヘビューザーならお分かりかと思いますが、写真の金色ロゴが出ただけでは全く安心出来ない方も多いと思います。要は他の予告との複合要素と相関が強すぎで、単体で信頼度を担保出来ないからです。

それでも長く打てば「味つけ」を理解して大体の感覚は得るのですが、それは長い時間を要します。しかしそれだけの時間稼働できる機種が限られるのも事実です。現在の遊技機サイクルでは、その機種の芯までユーザーが理解することはかなり難しい現実があります。

中短期稼働想定機種については期待値が大きくズレる予告体系を出来るだけ減らし、ユーザーの「裏切られた感」から生じる機種離脱を食い止める事も必要ではないでしょうか。

(大和田敏男)

意図は各社それぞれ